

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔土産〕 （経営者）	・事業仕分けで国民の期待感が生まれ、わずかではあるが回復に向かっている。昆布小売専門店だが、必需品でない昆布も前年から5%程度売上が伸びており、今後についてはやや良くなる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・得意先の来客数が増えているため、当店の売上もある程度増加してきている。また、観光客が多い土地柄であるため、これから観光シーズンを迎えることになれば、一層の売上の伸びにつながる。これまで長いトンネルをずっと走ってきたが、ようやく出口に近づいてきたと感じている。
		百貨店（販売促進担当）	・当社の他店舗でも前年並みの売上を維持できるところまで回復してきていることから、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・話題の商業施設が新規オープンしたこともあり、消費に対する関心や欲求が高まる。
		観光型ホテル（経営者）	・予約状況の伸びが順調であり、特に6～7月のトップシーズンにおける個人客の動きが顕著である。しかしながら、これらの個人客の動きはインターネット予約が中心であり、道外の主要エージェントの動きが鈍いことが懸念される。
		観光型ホテル（スタッフ）	・ゴールデンウィークを境に販売量・消費金額が上向いてきていることから、今後についてはやや良くなる。また、高速道路料金の動向によっては、地元客の動きも期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザ等の突発的な要因が発生せずに、このままの状態が続けば、多少は良くなっていく状況にある。
		タクシー運転手	・タクシーは天候に大きく左右されるが、競馬場の新装オープンや五稜郭公園の箱館奉行所の公開を控えていることから、観光客による利用増が期待できる。景気は少しずつだが回復している。
		通信会社（企画担当）	・春発売の新商品が好調で利益を底上げしているため、今後についてはやや良くなる。
		観光名所（役員）	・現状は東アジア各国からの入込に頼っているものの、今後夏場に向けて、国内からの集客増につながる観光施設等のオープンが予定されていることから、全体での入込数の増加が見込まれる。
		美容室（経営者）	・ずっと我慢をしてきた生活のなかから、小さなぜい沢をしてみたいという気持ち消費者に出てきている。そのため、納得できれば、今までよりも少し高品質な物を買う傾向がはじめており、今後についてはやや良くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・前年と比較して、予約件数が増加傾向にあるため、今後についてはやや良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅版エコポイント制度の効果がじわじわと効いてきていることから、今後についてはやや良くなる。
変わらない		商店街（代表者）	・全体としては底を打った感じはするが、先行きへの不安感はずいぶん消えず、このままの状態が続く。
		商店街（代表者）	・夏のバーゲンが前倒しされ、6月ごろからセール商戦に入ってくることが予想されるが、バーゲン開始当初の値引きが例年よりも大きくなりそうであり、来客数が増加しても、売上には期待できない。
		商店街（代表者）	・買上点数の減少に加えて、客の動きもあまりみられないことから、今後も厳しいまま変わらない。
		商店街（代表者）	・政府の政策に対して、客が疑問を持っていることから、今後の回復にはなかなか難しい面がある。
		商店街（代表者）	・歩行者天国等の夏のイベントが開催され始めるが、例年6～7月にかけて来街者数は減少する傾向にあることから、今後についても変わらないまま推移する。ただ、子ども手当の支給が6月であることから、下旬にかけて販売量が増加する可能性はある。
		百貨店（売場主任）	・気温が低いという天候要因の影響もあるとみられるが、紳士服・子供服は前年を上回るものの、婦人服は前年割れが続いていることから、今後についても変わらないまま推移する。一方で、食品好調の傾向は今後も変わらない。
		スーパー（店長）	・今年に入ってから売上が少しずつ良くなってきているものの、このまま安定して景気が良くなるという材料はまだ見当たらない。

スーパー（店長）	・競合店の閉鎖により、売上は増加して推移したが、間もなく競合店の閉店から1年がたつことになるため、今後の売上は横ばいでの推移となる。
スーパー（店長）	・戦略的な仕掛けを継続して実施しているが、相変わらず低価格商品のウエイトが高いため、今後も消費者のニーズに変化はみられない。
スーパー（役員）	・売上は、前年比で2～3ポイント上回っているが、客の買物頻度がやや低下しており、来客数が減少傾向にあることから、今後の動向が懸念される。
スーパー（役員）	・子ども手当の支給が一部の消費に回ることが期待できるが、ガソリンの値上がりが痛く、夏に向けての行楽需要、週末の買物等についてマイナスの影響が出る。全体としては変わらないまま推移する。
コンビニ（エリア担当）	・今後、天候が回復しても、売上が完全に戻るとは思えない。低単価商品の販売が好調であるなど、価格に対する消費者の反応は良いことから、今後も競合店との低価格競争は進行し、客単価の低下傾向が継続する。
家電量販店（店長）	・地上デジタル放送が開始される来年までは、現状と同じ水準で推移する。
家電量販店（地区統括部長）	・サッカーワールドカップ等のイベントにより、薄型テレビの販売が多少伸びるが、その他の大物家電の販売が落ち込み、全体としてほぼ横ばいで推移する。
乗用車販売店（従業員）	・全体の様子からは景気が回復傾向にあるとは思えない。特に、当地は農業生産と公共工事の量に大きく影響されることもあり、今後の回復に希望が持てない。
住関連専門店（経営者）	・良くなる材料がないため、今後も変わらないまま推移する。
観光型ホテル（経営者）	・全体の経済状況は若干上向いてきているが、その効果がレジャー・宿泊需要に反映されるまでにはまだ時間がかかる。また、実際の予約状況にも改善の兆しは見られないため、今後も現在の厳しい状況が続く。
旅行代理店（従業員）	・ゴールデンウィークの海外旅行が比較的堅調ではあるが、購入単価が低く、取扱額が前年並みにとどまっていることから、今後も変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	・受注数は増えるが、客単価の低下する傾向が今後もしばらく続く。
タクシー運転手	・当地のタクシー会社は、タクシー適正化・活性化法のもとで減車を計画しており、今年中に10%程度の減車が実施される予定であるため、需要が変わらなければ、会社の売上は増えないが、タクシー1台当たりの売上は上がる。
通信会社（社員）	・サッカーワールドカップを控え、サッカー好き・スポーツイベント好きな客に対して、テレビの多チャンネルビジネスを進めることはできるが、オリンピックほどの対象者数ではないため、大きな改善は考えられない。ただし、日本代表が決勝トーナメントに進むようなことになれば、状況は変わってくる。
観光名所（職員）	・天候不順に加えて、参議院選挙、上海万博、ガソリンの高騰等、観光を取り巻く環境は大変厳しい。海外客、国内客とも、大幅な増加は考えにくいだが、イベント等の実施により、ある程度の集客は期待できる。
パチンコ店（役員）	・良くなるように思いたいだが、恒久的なデフレが続いている現状から、良くなるとは思えない。単純に景気を金回りと解釈するならば、今しばらくは大きくお金が流通するほどの動きがあるとは思えない。
その他レジャー施設（職員）	・変わる要素を感じないため、今後も変わらないまま推移する。
美容室（経営者）	・このまま、やや良くなっている状態が続くとは思えないが、現在の客の様子からは不安要素もうかがえない。
美容室（経営者）	・政治や経済の不安定、世界情勢の不安定など、良くなる要素は1つも無い。
美容室（経営者）	・この数年、あまり変化はみられないため、今後も変わらないまま推移する。
設計事務所（所長）	・建築に関しては、相変わらず慎重な客の雰囲気を感じているため、今後も変わらない。
住宅販売会社（従業員）	・1～3月と比べて、来客数が大きく減っていないため、今後もある程度の売上は見込める。しかし、客の多くが大幅な値引きを期待しており、利益の確保が難しい状況にある。

	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・北海道は5～7月にかけて、冷夏であるという長期予報が出されたことから、夏物商戦では、カットソーや半そで関連商材の動きが厳しく、売れない状況となる。そのため、ジャケットや羽織物の品ぞろえや食品を中心とした物産催事を検討している。
		スーパー（企画担当）	・自社店舗周辺の競合店では、チラシ販促を中心とした低価格訴求、ポイントセールスの乱発が依然として激しく続いている。客の購買行動も低価格品へのシフトがまだまだ続いており、デフレの底入れは先が見えない状況にある。
		コンビニ（エリア担当）	・客は一層金を使わなくなっている。来客数も減少しており、お金を使うこと自体を控えている。買物の楽しみを忘れていく状況がうかがえることから、今後についてはやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこの値上げが発表されて以来、たばこの販売量が減少傾向にある。また、天候不順、低温が続く、客の消費マインドも低迷している。
		衣料品専門店（店長）	・客の話や売人同士の話から、今後良くなる見込みは全く感じられない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・石油製品の価格が高騰していることから、今後についてはやや悪くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・しばらくはアジア系観光客の来店で潤っていたが、今後については上海万博に客足を取られることになる。国内の政治不安の影響で、高速道路の無料化や子ども手当の実施についても霞んできた感があり、先月までの期待が一気に崩れている。
		タクシー運転手	・電話注文や来客数の増える要素が思い当たらないため、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	乗用車販売店（営業担当）	・前年度は、環境対応車への補助金が販売量の増加につながったが、今後は、需要の先食いの影響を受けて、商品の販売が低迷する。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注額をみると、新型インフルエンザの影響で悪かった前年の水準をはるかに下回っている。5月の国内旅行が前年比61%、海外旅行が前年比86%、6月の国内旅行が前年比75%、海外旅行が前年比57%と底が見えない状況であり、このままどこまで悪くなるのか想像もつかない。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	金属製品製造業（経営者）	・客からの引き合いが増えている現状から、今後の受注が増えてくることが見込まれる。
		金属製品製造業（役員）	・住宅確認申請が前年よりも微増で推移しているため、それにとまって自社の販売量も増えてくることが見込まれる。
		建設業（従業員）	・公共工事には多くを期待できないが、食品加工業等を中心とした設備投資が予定されていることから、民間工事が若干増加する。
	通信業（営業担当）	・まだ微増の範囲ではあるが、ユーザーからの引き合い件数が増加してきている。また1件当たりの規模もこれまでよりは大型化の傾向が出てきているため、今後についてはやや良くなる。	
変わらない		食料品製造業（役員）	・販売量が増加するような案件が見当たらないことから、今後についても変わらない。
		家具製造業（経営者）	・今後も景気回復の底堅さが持続する。とりわけ夏に向けた請負物件の話が前年よりも多いことから、期待できる。
		輸送業（支店長）	・新政権になり、公共事業が相当減り、北海道開発局の予算も前年比で17%の減少したことで、資材の物流もあまり増えることはなく、頭打ちとなる。また、客先では、ここにきて原材料が値上がりしていることも相当危惧している。物流業界においても、燃料の値上がりも頭の痛い問題になっている。多少景気が上向きになってきているが、こうした問題と相殺されるため、景況感に大きな好転はない。
		金融業（企画担当）	・政策効果の一巡で、特に建設業界が厳しくなり、総じて景気は足踏み状態となる。住宅投資は、住宅版エコポイント制度の導入や在庫調整の進展で持ち直す。観光関連は、国内・海外景気が回復基調にあることから、観光入込客の増加が見込まれる。個人消費は、夏期賞与の抑制から夏物商戦は期待できず、弱含みで推移する。
		司法書士	・現在の状況から判断して、不動産関係については大きく変化することはない。しかしながら、春から夏に向けて、若干増加する可能性はある。

		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・一部の商品の値上げが予定されていることから、駆け込み需要で販売量は増えるが、一時的な状況であり、全体的には変わらない。
	やや悪くなる	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・公共事業の発注量の減少が見込まれるため、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・良くなる要因が見当たらないため、今後については悪くなる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・ここまで受注が減って、新たな案件の話も極端に少ない現在の状況では、今の少ない受注案件を消化し終わる前に雇用に手を付けざるを得ない。周りでも、夏まで持たないといっている会社が急増している。
雇用関連	良くなる		
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・3月に引き続き、コンビニや小売業、飲食業、生活関連サービス業など、個人消費関連の求人が増加傾向にあり、景気の上昇機運が感じられる。
		職業安定所（職員）	・大手企業の決算発表期を迎えるが、総じて業績改善の予想が伝えられていることから、景気回復に向かう見通しが鮮明になってきた。
		学校〔大学〕（就職担当）	・卒業後の未内定者を対象とする複数の新卒者就職支援プログラムが厚生労働省を主管に整えられ、大学側の就職支援として、明るい兆しとなっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人数は増える傾向にあるが、企業が求めるスキルと求職者のスキルにギャップがあるため、マッチングが進まず、失業率は横ばいで推移する。また、新卒者で未内定の若年者が失職市場に流入することになれば、中高年の就職がますます困難になる。一方で、就職の決まらない新卒者が安易にアルバイト・パート市場に向かうことになれば、非正規労働者が更に増加し、適正な労働市場の形成が成されなくなる。
		人材派遣会社（社員）	・偏った職種での求人はみられるものの、全体的な回復感を感じられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・郊外に大型ショッピングセンターが相次いでオープンする予定であることから、求人の増加が見込まれるが、求人マーケットのパイは微減しているため、先々を考えると不透明感がぬぐえない。
		職業安定所（職員）	・求人数の増加はあるものの、パート求人の増加が主であり、求職者の数は前年を上回って推移していることから、今後も変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・3月の求人が増加したが、定年や契約満了による退職者の欠員補充の求人が多くみられたことから、今後も全体的な傾向は変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-